

悪徳業者に騙されるな！ 葬儀価格の「傾向と対策」

市川 愛 ● 葬儀相談員

葬儀価格の仕組みは、一般にはほとんど知られていない。過去二〇〇〇件を超える葬儀の相談に乗り、業界の裏表を知り尽くしているプロが、驚くべきからくりと業者選びの要諦を伝授する。

とかく、葬儀には不満が付きものである。

東京都生活文化局が二〇〇二年に発表した「葬儀にかかわる費用等調査報告書」によると、葬儀経験者のなかで「満足している」と答えた人の割合は二〇・六％。五人に一人しかいない。

満足できない最大の理由は、葬儀価格の不透明さだ。一昨年の公正取引委員会のアンケート調査では、「再度同じ業者に葬儀を依頼したくないと思う理由」として「サービス内容が葬儀料金に見合っていないと感じたため」がいの一番に挙げられている。

葬 儀に関しては、「適正料金」がわかりにくい。なにしろ「定価」というものが存在しないからだ。

祭壇や棺桶などが含まれているパッケージプランが一般的となっているが、これには料理や返礼品を含むものもあれば、含まないものもある。

のもある。「葬儀一式」（左ページのチェックポイント参照）と違っていても、葬儀に必要な備品・サービスすべてが含まれているわけではなく、多額の別途費用が必要になる場合もある。要は、葬儀会社によってまちまちなのだ。

葬儀価格をパッケージにしないで、備品・サービスを個別に価格計上するやり方もある。こちらは、葬儀経験者でも理解できない専門用語や聞いたこともないような項目の羅列で、初心者にはわかりにくい。

最近では価格破壊も進んでいるが、料金設定の内実は不透明だ。「葬儀料金は値切りにくい」という施主の心情に、悪徳業者は巧みに付け入る。

一二万円で販売される 原価五〇〇〇円の棺桶

葬儀費用のなかで最も値が張る祭壇（白木祭壇）を例にとれば、

これ以上なら割高！

葬儀サービス価格相場

項目	この金額を超えたら割高！	平均価格帯	解説
祭壇一式	密葬用（白木3段）の祭壇一式で50万円	50万～80万円	白木祭壇より生花祭壇のほうが高めになる。また、祭壇の高さ（段数）や装飾で価格は異なる
お柩（桐八棺）	10万円	7万円前後	布棺など高級仕様もある。遺体を安置する納棺料を含む場合もあるので要チェック
ドライアイス	1日1.5万円	8000～1万円/1日	遺体安置日数分
遺影写真（カラー4ツ切り）	4万円	2万～3万円	DPEショップの料金と比較すれば、もともと割高な商品
お骨壺	白色陶器で2万円	1万～3万円	棺桶と並んで原価の低さで知られた商品。特注品でない限り、高額なものは少ない
料理・飲み物	100人で60万円	3000～5000円/人	料理のランク×予想会葬者数の7割程度
遺体搬送	人件費込みで10 ^千 円 8万円	3万円/10 ^{キロ}	走行距離に応じた料金設定だが、遺体保全などの人件費が加算されることもある
霊柩車	5万円	3万～5万円	走行距離に応じた料金設定。宮型、洋型など、車種で価格差はあるが、高額にはならない
斎場使用料（公営）	—	5万～10万円	自治体の施設が高額になることはない
斎場使用料（民営）	30人着席で30万円	25万～40万円	グレードによっては高額なものもあるが、本来、価格差は小さい
火葬料	—	0～5万円	運営母体によって異なる
人件費・企画運営費	祭壇価格の20%	祭壇価格の10%	祭壇一式に料金が含まれていない場合

「昔は国産で最低でも一〇〇万円以上したが、今は中国製で六尺なら三〇万円台、九尺でも四〇万円台で買える。二回も貸せば元が取れて、あとは原価タダ。古くなったらカンナをかけて何度でも使い

回せる」（葬儀会社社長）のだという。そんな祭壇のリース料を一回一〇〇万円にするか、三〇万円にするかは、葬儀会社の胸三寸だ。棺桶も同じだ。業界標準の「桐八寸R（レギュラー）」、通称「桐

あなたはこうやって騙される!

危ない葬儀社チェックポイント10

- 1 実際の店舗・事務所が確認できない** 4点

葬儀社は全国で6000、首都圏だけで2000もある。そのなかには、受注した葬儀を他社に丸投げして、マージンを稼ぐだけの「葬儀ブローカー」もいる。電話帳に電話番号・住所を載せていても、店舗や事務所の有無が確認できないような業者は避けたほうが賢明。
 - 2 ホームページ (HP) に力を入れていない** 1点

HPに力を入れている葬儀社は価格やサービス内容の透明化に積極的で、前向きに取り組んでいる企業が多いので、大いに参考にしたい。公正取引委員会の調査では葬儀社全体の26%が価格表、カタログさえ公開していないのが現状だ。ただし、HPを開設しているだけで、情報が乏しいサイトの業者は避けたほうが無難。
 - 3 病院指定、遺体搬送を理由に契約を迫られた** 2点

霊安室で病院関係者のような顔をして作業を進める人物が、じつは葬儀社の営業マンというのはよくあること。病院へのリベートも、担当者が常駐するコストもすべて転嫁される。また、病院から自宅への遺体搬送を理由に契約を求める抱き合わせ販売も日常茶飯事だ。
 - 4 見積もり、契約書を要求しても出さない** 4点

公取委の調査では、葬儀の際、葬儀社から見積もりを渡されなかった施主が35.8%もあり、正式な契約書を受け取れたのはわずか10.4%。こうした契約形態が悪徳葬儀社の跋扈を招いている。見積もりや契約書を出さないような企業との取引は危険極まりない。
 - 5 見積もりや契約書の内訳に「葬儀一式」としか書いていない** 2点

葬儀を依頼する際に不可欠なのは「費用総額」の把握だが、「葬儀一式いくら」と説明する葬儀社が少なくない。葬儀一式とは、葬儀全体の費用ではなく、祭壇や棺桶などの基本料金。料理や返礼品など会葬者の数で変わる変動費部分は別料金であり要注意。
 - 6 担当者の説明・対応が乱暴で話を聞く姿勢がない** 2点

良心的な葬儀社は専門用語を多用せず、わかりやすく説明するし、質問には明確な答えが返ってくる。逆に初心者理解できない自分勝手な説明をしたり、質問に対しての返事を濁すような企業は論外。そんな場合はその後の仕事も期待できないのではかを当たろう。
 - 7 祭壇料金、棺桶料金を急に半額にするなど、不自然な値引きをした** 2点

祭壇、棺桶、骨壺などはいわゆる“定価”のない商品で、業者の言い値の世界。半額といっても、値引き前の価格に根拠がない以上、値引き分は他の商品価格に転嫁されたか、値引き後の価格が適正価格の可能性が高い。右ページの適正・割高価格表を参照されたい。
 - 8 マンションの集会所や公民館での葬儀をいやがる** 1点

集会所を備えるマンションは少なくないし、公民館などの公的施設も充実している。だが、葬祭会館を持つ葬儀社は自社施設使用を強く勧めがちで、当然、葬儀費用は跳ね上がる。自社の利益と顧客の希望のどちらを優先するか確認する手段に使ってみよう。
 - 9 市民 (区民) 葬など廉価な葬儀を取り扱わない** 1点

東京都をはじめ多くの自治体が低所得者向けの必要最低限の廉価な葬儀を葬儀社 (組合) と協力して用意している。そうした商品を扱う葬儀社なら、儲かる葬儀以外は他社に丸投げする業者である可能性は低いし、市民葬以外に安価なプランを揃えていることも多い。
 - 10 葬儀社の紹介で読経に来た僧侶が寺を持っていない** 1点

葬儀社に紹介された僧侶には“マンション坊主”と呼ばれる、寺を持たずマンションの1室を“布教所”とする読経専門の僧侶が少なくない。彼らへのお布施は、その多くが葬儀社にキックバックされているうえ、その後の納骨などで菩提寺とのトラブルになることもある。
- | | | |
|-------------|------------|----------------------------------------------|
| 0~4点 | 合格 | まずは安心して大丈夫でしょう。得点を0点にできるよう粘り強く交渉しましょう。 |
| 5~8点 | 要注意 | 4点の項目がなくて、この得点内なら、相見積もりの1社くらいに残しておいてもいいでしょう。 |
| 8点以上 | 論外 | 危ない葬儀社の可能性が高く、相手にしてはいけません。すぐ、ほかの葬儀社を探しましょう。 |

八」の価格は、「大量に仕入れれば問屋の卸値は中国製で五〇〇〇円強」(葬儀会社幹部)。ところが実際には、これを三万円円で売る葬儀会社もあれば、一二万円円で売る葬儀会社もある。

普通なら、零細業者の価格設定は割高で、大手業者は割安だと考えられる。なぜなら、零細業者の

葬儀施行件数は少なく、粗利を高め設定せざるをえない。かたや大手業者には「スケールメリット」があり、料金を低めにしても十分な粗利益が得られると考えられるからだ。

しかし、現実にはそうと断言できない。葬祭会館を多数抱える大手の葬儀会社には、会館の維持管

理負担がのしかかる。そのぶん経費を上乗せするため、むしろ葬儀価格は高めになる傾向がある。逆に葬祭会館を保有していない「出張葬儀専門」の葬儀会社は固定費負担が軽く、価格破壊で勝負できる。

どこのつまり、葬儀の適正料金については、業者規模の

大小に関係なく個別に判断するしかない。

そこで参考にしてほしいのが、右ページの葬儀価格表である。一般的な葬儀において、「この金額を超えたら割高!」と判断される水準をズバリ示し、参考までに平均価格帯も併記した。この価格表を活用すれば、葬儀料金につき



T.U.

何十万円もの使用料を取る「無垢材使用白木祭壇」も裏から見れば化粧板製の組立家具。丸儲けである

まとう不透明さは、おおむね解消されるはずだ。

キックバック横行で ふくれ上がる葬儀料金

適正料金の見極め方のみならず、葬儀会社の選び方も重要となる。「病院で紹介されたから」「電話帳で調べて住所が近かったから」と

いう安易な理由で葬儀会社を選び、その言いなりになって葬儀を施行し、巨額の請求書が届いてから文句を言っても後の祭りなのだ。

と

りわけ、「病院の紹介」には注意が必要である。葬儀会社にとって、病院は需要の宝庫。霊安室に出入りできるようになれば、労せずして注文が取れるため、

(特に私立病院に
対しては)莫大な
コストを投じる。
保証金、寄付金
と称する金銭提供
は基本中の基本。
これに社員の二四
時間常駐の人員費、
医師、看護師への
接待費などが加わ
り、病院にかかる

経費は葬儀会社一社当たり年間数百万〜数千万円に上る。

これらの経費は通常は葬儀料金に上乘せされるので、病院で紹介される葬儀会社の料金設定は、そもそも割高であると考えて、まず間違いない。

病院だけでなく、たとえば「相談無料」の葬儀会社紹介所経由で葬儀を行なった場合、施主が葬儀会社に支払った料金の一五〜三〇%程度が「紹介料」として紹介所にキックバックされる。

さらに葬儀会社に僧侶の手配を頼んだ場合、その僧侶はお布施の二〇〜三〇%、時には五〇%以上を紹介料として支払う。寺を持たない僧侶の葬儀読経は組織化され、都市部には手配専門の僧侶組合があるほどだ。読経に加えて、花や

料理などにもすべからずキックバックが連鎖し、それらは施主に転嫁される。

以上のような業界構造を踏まえ、葬儀会社の選び方のチェックポイントを一〇五頁に掲載した。「私は互助会で葬儀資金を積み立てているから安心だ」と思っている読者も多いだろうが、相互扶助をうたう互助会も実態は営利企業。積立金額が三〇万円前後しかなく、葬儀後に多額の追加支払いを余儀なくされることも多いから油断ならない。

最低でも二社以上の葬儀会社から相見積もりを取り、前もって価格・質の両面を比較検討しておくこと。大切な身内が亡くなってからあわてるようでは、悪徳業者の思うツボである。